

8 人間が主役の世紀へ

我が国の国民意識は、物質的な豊かさ追求から、心の豊かさ、ゆとり重視へ向かいつつある一方で、目標や誇り、自信の喪失、人間同士の連帯感や他者への思いやりの希薄化が進んでいるとも言われている。

21世紀は、人間を含む多くの生き物が生活する地球を守り、人間らしく生きていく

ことが基本である世紀にしていくことが重要であり、今ある豊かさの中に満ちている夢や希望を大切に、人間と地球・自然との関係や人間関係のあり方、そして個人のライフスタイルに至る大胆な意識の転換が必要である。

(1)現状と経緯

(横並びから個性化へ)

- 高度経済成長に支えられ、我が国の所得水準は大きく上昇し、総中流意識と言われるように国民の多くが一定程度の豊かさを享受するに至り、近年では、心の豊かさ、ゆとりを志向する人々の比率が高まってきている。

一方、低成長時代に入り、企業や社会においても勤勉性だけでなく、個性や創造性が重視されるようになり、能力主義賃金制度への移行や雇用の流動化も進展している。

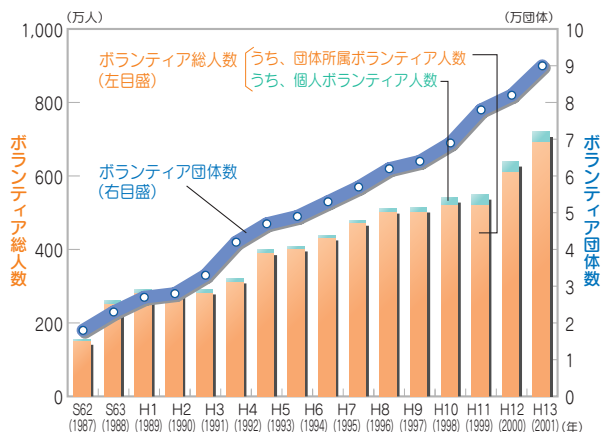
- また、経済の停滞や時代の閉そく感の中で、多くの国民がストレスを抱え、誇りや自信を失いかけていることが、離婚や自殺の急増などに表われているとも言われている。

さらに、過度の個人主義が対人関係を煩わしく思う意識を生み、それが人と人との連帯感や他者への思いやりの希薄化につながり、地域コミュニティの機能低下やモラル意識の低下、犯罪の増加などを招いている面もある。

(社会参加、ボランティア)

- 社会貢献や社会参加意識の高まりなどを背景に、特に、阪神・淡路大震災の起きた平成7年以降、ボランティア数は着実に増加してきている。しかしながら、我が国のボランティア活動への参加比率は、米国、イギリスの5割前後に対し、25%と約半分に止まっており、特に30代前半までの若い世代の参加率が低い。

我が国のボランティア数の推移



資料：内閣府「国民生活白書」（平成12年度）

(自己実現志向)

- 自己実現に対する欲求が高まり、生涯学習や趣味、娯楽、レクリエーションなどの様々な活動に参加する人が増加してきている。
- 「癒（いや）し」や「*スローライフ」という言葉が注目されるなど、現代の生活のスピードやストレスに対して違和感を持ち、自然のサイクルを大切にしたい、人間的な生き方を志向する人も増加している。
- また、女性の社会進出もますます進んでおり、それに対応して家事や保育サービスも充実してきている。
- 高齢社会を迎える中で、高齢者の社会進出や生きがいづくりのための活動が活発になっている。また、社会全体として健康に対する志向・関心が高まってきている。

(2) 将来の予測

(価値観の多様化、個人の価値観が地域や国、世界を動かす時代へ)

- グローバル化と高度情報ネットワーク化の進展により、インターネット等による個人レベルでの世界との情報の流通が進み、我が国においても一層価値観の多様化、個人化が進むとみられる。
- 個人のレベルにおいても、全国・世界に向けた意思表示、情報発信が十分可能となり、成熟した個人の集合体が、社会を変える大きな原動力となっていく。
- 商品、サービスにおいては、消費ニーズの多様化による市場の細分化が進展する一方、誇り・文化といった価値観が再評価されるようになっていく。

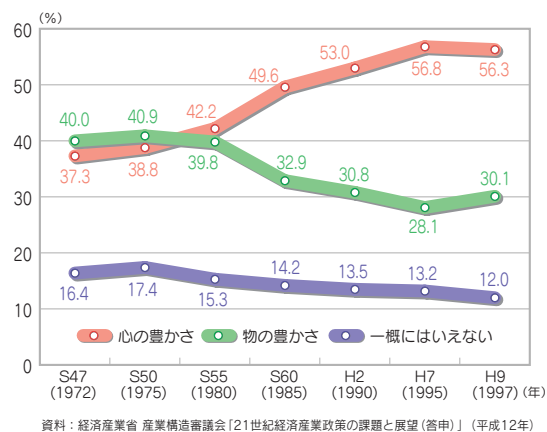
(社会参加、ボランティア)

- 社会貢献、社会参加への意識の高まりと、行政では対応できないサービスニーズへの対応の必要性から、自然環境保全や高齢者介護、地域扶助などを目的としたボランティア活動やNPO活動は一層活発化していく。特に、高齢者や女性も含め、個人の個性や能力、経験を活かした社会参画、社会への貢献が期待される。

(自己実現志向)

- 職場や地域以外の様々な組織や活動への参加が活発化する。
- こうした動きを受けて、時間消費型レジャーや観光関連産業、健康ビジネスあるいは家事や保育サービスなどの産業分野の成長、市場拡大が期待される。

国民の豊かさに対する考え方の変化



【スローライフ】高度経済成長時代の「早く、安く、便利に、効率よく」の追求に対し、自然環境やものの価値をもう一度見直し、ゆとりある人間的なライフスタイルを志向する考え。

(3) 今後の課題

(人間らしく生きる世紀)

- 21世紀は、人間を含む多くの生き物が生活する地球を守り、人間らしく生きていくことが基本である世紀としていかなければならない。

(心の構造改革～明るさやおおらかさ)

- 多くの国民が、都市や農村、自然のありようや人間性という大きな喪失に対しては鈍感になった一方で、物質的、経済的豊かさの喪失に対しては、たとえ小さくても過敏に反応するようになってきた。こうした敏感さが、いたずらに悲観的になったり、批判的になったり、ストレスをため込んだりする国民を増やしていったとも言える。

我が国は、経済的には欧米諸国に追いつき、見習うべきものはないとも言われているが、人々のおおらかさや、何事にも動じることなく自分たちの誇りを保ち続ける姿勢などは、これから日本人が見習っていくべき資質の一つである。

特に、ヨーロッパ諸国における人々の営みや人と自然を大切にする試みなどは、これから国民が共有し合うべき方向性として見習うべき点が多い。

多くの国民が、現在の国力を信頼し、おおらかさと明るさをもって協力し合い、暮らしていくことで、地域、自然、そして人間性の再生、復活を発展へとつなげていくことも十分可能である。

(幸福追求のモデル)

- 人間性を重視した価値観をつくっていくためには、生きる喜びや人生の目的に沿った基礎的な幸福追求のモデルをあらためて国民が共有し合うことが大切である。

暮らしや心を犠牲にしながら効率性や経済発展を追求するのではなく、今ある豊かさの中に満ちている夢や希望を大切にしながら、人間的な生活を追求していく時代へと切り替えていく必要がある。

特に、最小のコミュニティである夫婦や家族の基礎的コミュニケーションとしての愛情を、今ある豊かさを楽しむゆとりを持って、お互いのおおらかさや明るさではなく、隣人愛や地域への愛に拡大していくことが重層的なサイクルとしてつながることが重要である。

(働くことの意味・目的)

- 分業化が進み、働くことの意味・目的や自分の居場所を見失いがちな時代とも言われているが、地球や人間のためという、働くことの真の意味・目的、厳しさや苦しさの向こうにある喜びや楽しさをあらためて認識し合うことが重要である。

(社会参加、ボランティア)

- 社会参加、社会貢献意欲の高まりにこたえるため、ボランティアやNPO活動等の受け皿の整備をしていくことが求められる。高齢者や女性を含めて働きやすい環境を整え、個人の個性や能力、経験を活かした社会参画、社会への貢献を促進することが求められる。また、だれもが文化、スポーツ、レクリエーション等に身近に親しめる環境の整備も図る必要がある。

(大胆な意識転換)

- 我々は既に多くの豊かさを享受してきており、そこにある豊かさを見つめ直し、分かち合うことが大切である。

成熟した国家のあり方として、20世紀の成長拡大路線の功罪を見つめ直し、高齢化時代の福祉社会づくり、少子化対策や子育て支援、人づくり、男女共同参画社会づくり、地球規模の課題など、人間と地球・自然との関係や人間関係のあり方など、今後予想される大きな共通の課題について、多くの国民が真剣な議論に加わり、個々の利害を超えた対話を積み重ねながら、個々人のライフスタイルにまで立ち戻った大胆な意識の転換を進めていくが必要になっている。

